

南国市指定史跡「前浜掩体群」 4号掩体の調査

【前浜掩体群について】

史跡指定年月日：平成 18 年 2 月 21 日

指定概要：

掩体は飛行機の格納庫で、高知空港の前身である高知海軍航空隊基地の施設として終戦間近の昭和 19 年（1944 年）頃に建設されたものです。防衛庁（高知空港史）の資料によると、当時、中型 15 基、小型 9 基、W 型 17 基の計 41 基あったと記されています。掩体は、敵の攻撃から飛行機を守るための構造物で、その中には、鉄筋コンクリート製のもの、木や竹、土で造られたもの、屋根がなく擁壁のものなどもありました。

現在残っているものはコンクリート製のもの 7 基ですが、当時どの掩体にも中央の滑走路からそれぞれの掩体までは東西 3 本、南北 4 本の幅約 40 メートルの誘導路がはりめぐらされていました。

掩体の天井には、むしろやセメント袋のしわの跡、型枠の板の年輪の跡が転写されて残っており、当時の作業の状態を目の当たりにすることができます。

掩体は高知県内で残されているのはここだけであり、全国的にもこれだけまともに残されている例はあまりなく、南国市の史跡に指定しています。このうちの小型掩体である 5 号掩体は平成 25 年（2013 年）に公園化整備し、一般公開しています。

【4号掩体について】

所在地：南国市前浜 1806 番地

規 模：最大幅 44.5m、奥行き 23.9m、高さ 8.45m

7 基のうちで唯一残る大型掩体。南向きに開口しています。

中攻機である一式陸攻が格納されていたと言われています。

建設時の型枠を組んだ土台のコンクリート基礎台がそのまま残されている特徴があります。コンクリートには型枠の板の年輪等がくっきりとついており、建設過程が詳細に観察できます。

【発掘調査の成果】

調査主体：南国市教育委員会

調査期間：令和 7 年 1 月 27 日～2 月

調査面積：24㎡

調査目的：掩体内部の構造や基礎形状を確認するために実施しました。



コンクリート基礎台付近の内面の型枠板圧痕

◆「前浜掩体群」見学に際しては下記の点をご留意ください◆

1. 駐車について

○掩体周辺の道路は農道ですので、車を停めると農作業の妨げとなります。掩体見学の際は前浜防災コミュニティセンター駐車場をご利用ください。

2. 見学について

○掩体内部は危険ですので立ち入らないようにしてください。

○5号掩体公園以外の掩体周辺はすべて私有地です。畑や田んぼには立ち入らないようにしてください。あぜ道や農作物を痛めないようにご注意ください。

★発掘調査によって分かった4号掩体の姿

小型の掩体である5号掩体は、練習機白菊専用の構造で、機体の形に掘りくぼめられた半地下式構造であることが判明しています。一方、今回調査した大型掩体である4号掩体は小型の掩体と異なり、現在の高さとあまり変わらず、床面がほぼ平坦であったことが分かりました。

4号掩体は中攻機である一式陸攻が収められたと言われていますが、地元の方の証言では、大型の掩体には白菊を何基も入れるような使われ方もしていたようです。調査で4号掩体の床面はほぼ平坦であることが確認できたことから、どのような飛行機でも格納できるように意図して造られた可能性があります。



また、前部アーチの裾には建設の際に型枠を組むための土台となるコンクリート基礎台の構造物があり、その構造と掩体本体との関係が明らかとなりました。掩体の表面には全体に板の木目が付いており、それを詳細に見ると、複数枚の板を組み合わせた木製パネルを並べてコンクリートを打設していることが分かります。その木製パネルのつなぎ目に土台となるコンクリート基礎台が等間隔に設置されており、型枠工法での掩体構築の土台の役割を果たしています。

4号掩体本体のアーチ部分の基礎は地上部分より一回り大きい穴を掘って、穴に直接コンクリートを流し込んで作られています。後部アーチの基礎は現在の地表面より深さ 1.2m 以上、幅 2.6m 以上もあり、本体のアーチ構造を頑強に支えています。

全国で大型掩体は前浜の他には、九州に5基知られているのみです。そのうち発掘調査事例は福岡県行橋市の稲童1号掩体のみですが、前浜4号掩体とは構造や建設方法が異なります。今回の調査により、平地ですべて型枠工法により作られた大型掩体の築造過程や構造を詳細に知ることができました。

他にも、掩体内部から、当時の食器や、トロッコなどに使われたと思われるレールなど、当時の様々な遺物も出土しました。このように、発掘調査によって、記録には残っていない様々な特徴が判明しました。

今回の調査では、3Dレーザー計測も実施し、掩体の質感や細かな特徴も観察できるデータを作成します。これにより、今後、掩体のより詳細な検討や、活用が可能になります。

【おわりに】

南国市には、掩体の他にも浜改田や物部の「トーチカ」や高知大学農学部キャンパスの「通信所跡」、陣山の「送信所跡」など、数多くの戦争遺産が残されています。これらは「戦争」のためだけに多くの人員を動員して作られた特異な存在ですが、高知県内には至る所に残されています。そうしたものを観察することを通じて、戦争は二度と繰り返してはならないという教訓を後の世代にも伝えるための身近な平和教材として伝えていく必要があります。



浜改田のトーチカ



物部のトーチカ

令和 7 年 2 月 27 日発行

南国市教育委員会生涯学習課文化財係

お問い合わせ先：☎ 088-802-6062



後部アーチの基礎は深さ 120cm、幅 260cm 以上の素掘りの穴に直接コンクリートを流し込んで造られています。コンクリートの下には河原石が敷き詰められています。後部アーチを造った後に、その上に壁部分を造ったことが分かります。

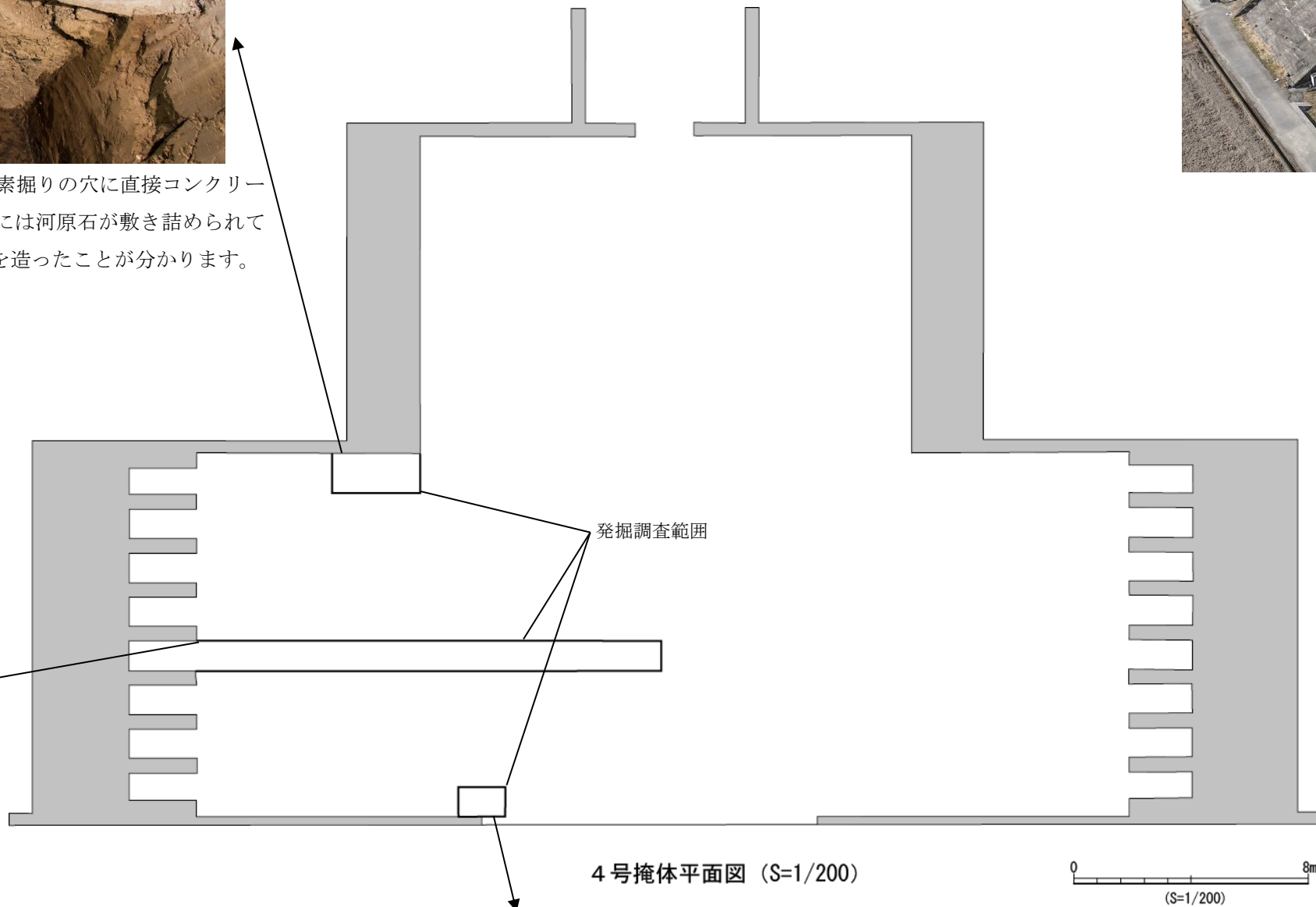


前部アーチ内側には左右に各 9 個のコンクリート基礎台が置かれています。1つの基礎台の大きさが最大幅 255cm、厚さ 50cm、高さ 190cm、地下の根入れ深さが 90cm です。

基礎台より上の本体コンクリートには型枠のパネル圧痕があることから、型枠を組むための台座の役割を果たしていると考えられます。

型枠のパネルは 8 枚程度の板を組み合わせ横 150cm、縦 75cm の大きさに基礎と基礎の間に渡していました。

前浜掩体群の現存する掩体はすべて大小 2 つのカマボコ形を組み合わせた形で、上から見ると「凸」形をしています。前側に主翼を、後側に尾翼を格納するためにこのような形になっています。4 号掩体には一式陸攻という双発の飛行機が格納されていたと言われています。掩体の屋根上には土が残されていますが、これは草を生やしてカモフラージュのため、アーチ構造の強化のため、爆撃による衝撃緩和のためなど様々な理由で建造当時に上に乗せていたものが残っています。



開口部の壁の基礎は比較的浅く、深さ 40cm の基礎で高さ 140cm、厚さ 26cm の壁を支えています。



4 号掩体からは様々な遺物が出土しています。青色に塗られた海軍の食器類や、トロッコのレール、飛行機のタイヤを加工して作ったリヤカーのタイヤ、軍刀や硬貨など多種多様な遺物により、当時の状況を具体的に知ることができます。

